

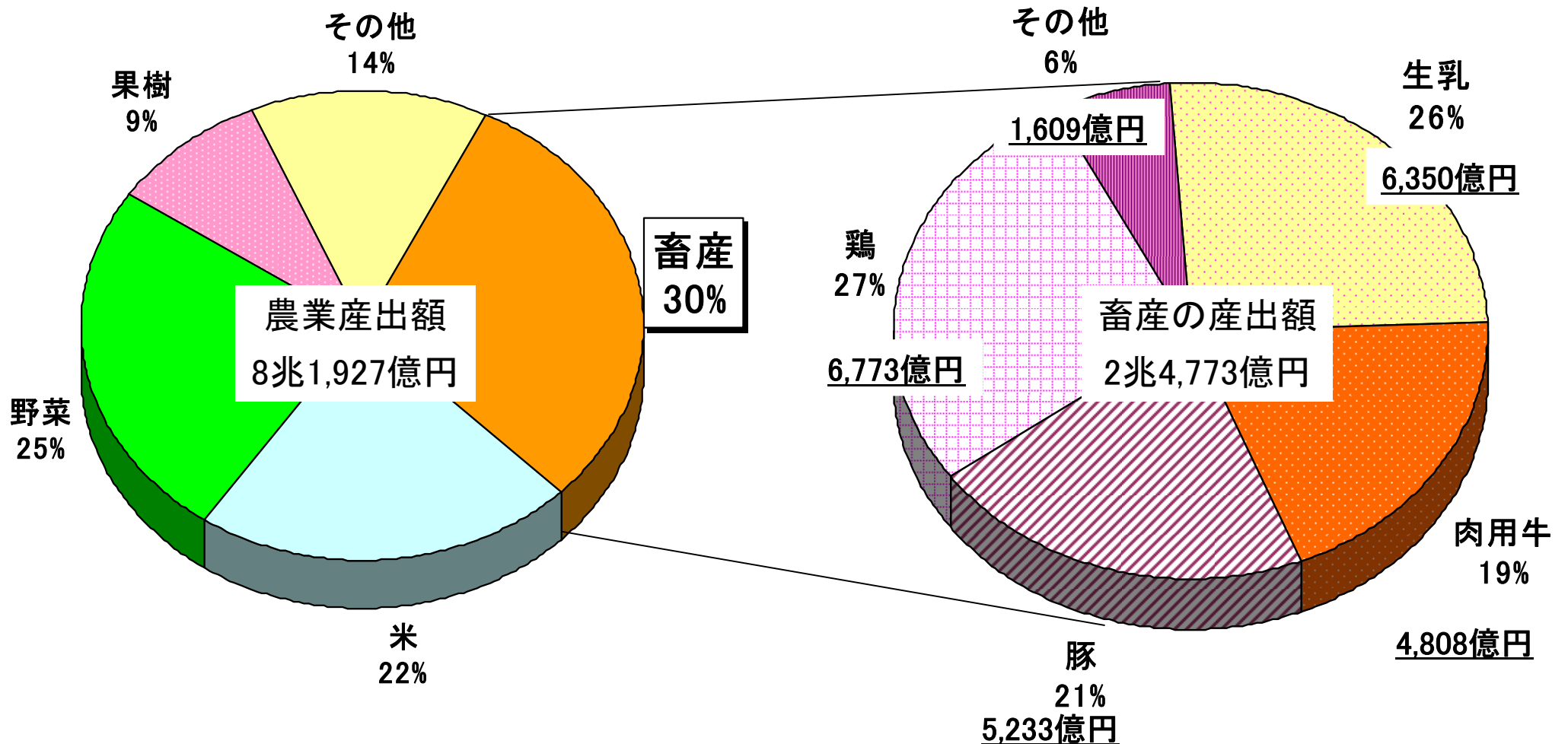
## 【参考資料】

〈基本的な事項〉



## 我が国農業における畜産の地位

- ・ 平成19年の農業産出額は8兆1,927億円。うち畜産は2兆4,773億円となっており、産出額の約3割を占める。
- ・ 畜産の産出額のうち、生乳が26%、肉用牛が19%、豚が21%、鶏が27%となっている。



資料: 農林水産省「平成19年農業産出額(概算)」

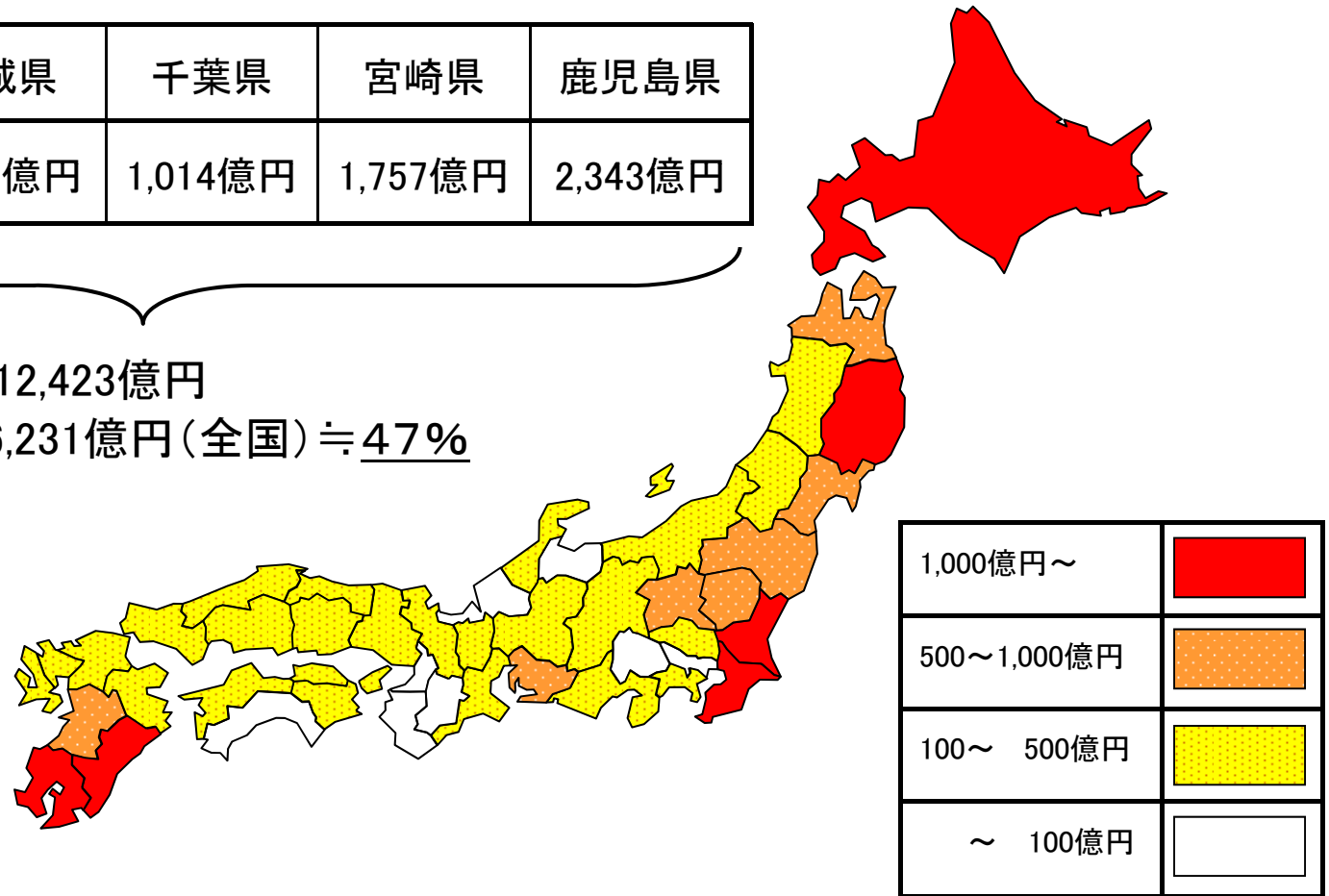
注: 端数の関係から、合計しても100%とならない場合がある。

## 畜産の都道府県別産出額

- 産出額を都道府県別に見ると、1,000億円以上が6道県(北海道、岩手県、茨城県、千葉県、宮崎県、鹿児島県)となっており、この6道県で全国の約5割を占める。

北海道	岩手県	茨城県	千葉県	宮崎県	鹿児島県
4,986億円	1,265億円	1,058億円	1,014億円	1,757億円	2,343億円

計 12,423億円  
 ÷ 26,231億円(全国) ≒ 47%



資料: 農林水産省「平成19年農業産出額(概算)」

注: 都道府県別の数値は中間生産物(子豚等)が重複計上されているため、前ページの数値とは一致しない。

# (参考)都道府県別畜産物産出額(平成19年)

単位:億円

	畜産合計		肉用牛		生乳		豚		鶏	
	産出額	順位	産出額	順位	産出額	順位	産出額	順位	産出額	順位
北海道	4 986	1位	645	2位	2 732	1位	326	5位	309	7位
青森	714	11位	84	19位	62	23位	218	8位	335	6位
岩手	1 265	4位	233	6位	197	6位	220	7位	585	2位
宮城	651	12位	198	8位	130	9位	116	16位	190	13位
秋田	295	30位	56	27位	31	35位	143	12位	60	31位
山形	324	24位	96	18位	80	19位	109	18位	31	40位
福島	525	13位	150	10位	92	14位	108	19位	158	17位
茨城	1 058	5位	120	15位	151	8位	414	3位	351	4位
栃木	866	9位	236	5位	276	2位	191	10位	130	22位
群馬	926	7位	139	12位	236	4位	323	6位	171	15位
埼玉	304	27位	31	34位	77	20位	80	20位	102	26位
千葉	1 014	6位	45	30位	241	3位	348	4位	345	5位
東京	22	47位	1	46位	13	45位	2	46位	4	46位
神奈川	170	36位	10	40位	64	22位	45	29位	41	37位
新潟	478	15位	30	36位	71	21位	141	13位	227	10位
富山	87	40位	10	40位	15	43位	21	34位	38	39位
石川	102	39位	7	44位	28	37位	20	37位	43	35位
福井	41	45位	8	43位	10	46位	4	45位	18	44位
山梨	73	43位	11	39位	18	42位	13	40位	28	41位
長野	312	26位	71	21位	113	11位	56	25位	55	34位
岐阜	402	19位	103	16位	53	27位	62	24位	174	14位
静岡	382	20位	72	20位	92	14位	78	22位	109	23位
愛知	793	10位	100	17位	193	7位	210	9位	243	9位
三重	324	25位	66	23位	49	29位	64	23位	140	19位

単位:億円

	畜産合計		肉用牛		生乳		豚		鶏	
	産出額	順位	産出額	順位	産出額	順位	産出額	順位	産出額	順位
滋賀	109	38位	54	28位	27	38位	7	42位	20	43位
京都	125	37位	16	37位	37	32位	10	41位	57	32位
大阪	27	46位	1	46位	15	43位	5	44位	4	46位
兵庫	486	14位	124	14位	122	10位	14	39位	212	11位
奈良	74	42位	10	40位	31	35位	7	42位	22	42位
和歌山	57	44位	5	45位	4	47位	1	47位	42	36位
鳥取	217	33位	32	33位	58	25位	53	26位	68	30位
島根	200	34位	70	22位	57	26位	24	33位	40	38位
岡山	446	17位	65	24位	104	12位	21	34位	245	8位
広島	365	23位	58	26位	61	24位	39	30位	194	12位
山口	189	35位	41	31位	22	40位	15	38位	107	25位
徳島	277	31位	62	25位	41	31位	32	31位	137	20位
香川	229	32位	31	34位	33	34位	26	32位	137	20位
愛媛	303	28位	35	32位	44	30位	124	14位	91	28位
高知	78	41位	13	38位	25	39位	21	34位	16	45位
福岡	375	21位	54	28位	99	13位	47	28位	159	16位
佐賀	300	29位	133	13位	22	40位	48	27位	93	27位
長崎	453	16位	201	7位	52	28位	119	15位	72	29位
熊本	907	8位	294	4位	230	5位	180	11位	156	18位
大分	431	18位	140	11位	87	17位	79	21位	108	24位
宮崎	1 757	3位	621	3位	88	16位	477	2位	555	3位
鹿児島	2 343	2位	816	1位	81	18位	712	1位	723	1位
沖縄	371	22位	162	9位	37	32位	111	17位	57	32位

## 家畜・家きんの種類: 乳用牛

- ・ 雌牛から、飲用牛乳やバター、チーズ、ヨーグルトなどの乳製品を生産するための「生乳(せいによう)」を搾乳。
- ・ 経産牛(子供を産んだことがある牛)1頭当たり年間約8,000kg(昭和40年約4,300kg)の生乳を生産、平均搾乳期間は360日程度。

注: 生産物である生乳は、リットルなどではなくキログラムやトンで数える。

### ホルスタイン種

雄牛



典型的な乳用牛であり、我が国で飼養されている乳用牛の99%以上がホルスタイン種。その数は約150万頭。もちろん人間同様、子供を産まないと乳は出ない。

「種雄牛(しゅゆうぎゅう)」と言い、雌に種付けするための精液を採取するための雄牛。精液販売の専門業者など、限られたところでしか飼養されていないため、めったに見る機会はない。

雌牛



写真提供: (社)全国肉用牛振興基金協会

### ジャージー種



我が国ではホルスタイン種の次に頭数が多く、その数は約1万頭。ホルスタイン種に比べ、乳量は少ないが、乳脂率が高いという特徴がある。主に岡山県の蒜山高原などで飼養されている。

写真提供: (社)中央畜産会

### ブラウンスイス種



我が国ではホルスタイン種、ジャージー種の次に頭数が多く、その数は1千頭強。ホルスタイン種に比べ、乳量は少ないが、乳タンパク率が高くチーズ加工に適し、足腰が強く放牧に向いている。主に北海道、九州などで飼養されている。

写真提供: (社)中央畜産会

# 家畜・家さんの種類:肉用牛

- ・ 肉用牛には3種の区分があり、それぞれ「肉専用種(和牛)」「乳用種(国産若牛)」「交雑種(F1)」と呼ばれている。
- ・ 「肉専用種」はそもそも牛肉を生産する目的で飼養されているもの。「乳用種」は酪農経営の副産物である雄牛を肉向けに肥育したもの。「交雑種」は乳用牛の雌に肉専用種の雄を掛け合わせ、肉質の向上を図ったもの。

## 肉専用種

### 和牛(4品種)

#### ○黒毛和種

我が国和牛の主要品種。肉質、特に脂肪交雑(いわゆる「サシ」)の点で非常に優れており、「霜降り高級牛肉」を生産。肉専用種の飼養頭数のうち、約95%がこの品種。



#### ○無角和種

被毛色は黒色で黒毛和種より黒味が強い。肉質の面では脂肪交雑や肉のきめなどが黒毛和種より劣る。



#### ○日本短角種

脂肪交雑はやや劣るが、体格が良く、放牧適性が高く粗飼料で効率的に赤身肉を生産。岩手県が主産県。



#### ○褐毛和種

肉質の点では黒毛和種に次ぐ。耐暑性に優れ、粗飼料利用性が高い。熊本県が主産県。



写真:(社)全国肉用牛振興基金協会HPより

この他、外国種(アンガス、ヘレフォードなども)

## 乳用種(国産若牛)

#### ○ホルスタイン種(♂)

酪農経営の副産物である雄牛を去勢(きよせい)し、肥育する。肉質の点で輸入牛肉と競合。



この他「ジャージー種」なども

※「乳用種」「交雑種」の初生牛(ヌレ子:子供の牛)は酪農経営で生産される。

## 交雑種(F1)

#### ○黒毛和種(♂)×ホルスタイン種(♀)

乳用種の雌牛に肉専用種の雄牛を交配し、肉質の向上を図ったもの。



写真提供:(社)全国肉用牛振興基金協会  
乳用種は(社)中央畜産会

## 家畜・家きんの種類:豚

- ・ 養豚は主として、異なる品種を掛け合わせることによってそれぞれの両親や祖父母が持つ特徴を活かして、肉質、発育性、多産性などを向上させ、経済効率を高めながら、豚肉生産が行われている(三元交配(さんげんこうはい)など)。
- ・ また、純粋種としても生産され、我が国では「黒豚(バークシャー種)」が有名。

デンマーク原産。  
背脂肪が薄く赤肉率も高く、  
発育も極めて早いのが特  
徴。



ランドレース種

大ヨークシャー種



英国原産。  
赤肉率が高く、加工  
品の原料として高い  
評価を得ている。

米国原産。  
顔は長めで、顔面は  
わずかにしゃくれ、色  
は褐色。主要な雄系  
品種として飼養頭数  
も多い。



デュロック種

バークシャー種



英国原産。  
発育性(増体)は劣るが、  
肉質(きめ細かさ・柔らか  
さ)が良いのが特徴で、  
「黒豚」と呼ばれている。  
鹿児島が主産県。

# 家畜・家さんの種類: 鶏

- ・ 鶏には、主として、卵を生産する「卵用種」と、ブロイラーなど肉用として飼養される「肉用種」がある。
- ※ 「卵肉兼用種」もある。

## 卵用種



○白色レグホン  
代表的な卵用種。  
産卵数は供用初年  
度で250~290と多  
産。

1人・1年当たり鶏卵消費量  
S35年 121個  
↓  
H16年 318個  
↓  
H19年 330個

## 肉用種



○白色プリマス  
ロック  
この雌と「白色  
コーニッシュ」とい  
う品種の雄を掛  
け合わせたもの  
が、ブロイラーの  
主流。

○比内地鶏  
写真は比内鶏。  
この雄と「ロードア  
일랜드レッド」とい  
う品種の雌を掛け  
合わせて「比内地  
鶏」という銘柄で食  
用に供されている。



## 飼養動向：乳用牛

- ・ 飼養戸数は小規模層を中心に減少しており、近年は年率3～4%台で減少してきたが、21年は5.3%の減少。飼養頭数は減少傾向で推移。
- ・ 一戸当たり経産牛飼養頭数及び経産牛一頭当たり乳量は着実に増加。

### 乳用牛飼養戸数・頭数等の推移

区 分 / 年		13	14	15	16	17	18	19	20	21
乳用牛飼養戸数(千戸)		32 (▲4.2)	31 (▲3.7)	30 (▲3.9)	29 (▲3.4)	28 (▲3.8)	27 (▲4.0)	25 (▲4.5)	24 (▲3.9)	23 (▲5.3)
うち 成畜50頭以上層(千戸)		8.4	8.2	8.2	8.2	8.0	7.7	7.6	7.6	7.8
戸数シェア(%)		(26.2)	(26.6)	(27.8)	(28.8)	(29.2)	(29.3)	(30.4)	(31.4)	(34.1)
乳用牛飼養頭数(千頭)		1,725 (▲2.2)	1,726 (0.1)	1,719 (▲0.4)	1,690 (▲1.7)	1,655 (▲2.1)	1,636 (▲1.1)	1,592 (▲2.7)	1,533 (▲3.7)	1,500 (▲2.2)
うち 成畜50頭以上層(千頭)		931	937	954	988	991	979	971	960	985
頭数シェア(%)		(54.7)	(55.3)	(56.7)	(59.4)	(60.8)	(60.8)	(61.9)	(63.8)	(66.8)
うち 経産牛頭数		1,124	1,126	1,120	1,088	1,055	1,046	1,011	998	985
一戸当たり 経産牛頭数(頭)	全 国	34.9	36.3	37.6	37.8	38.1	39.3	39.8	40.9	42.6
	北海道	50.7	52.4	54.6	55.1	55.3	57.2	56.8	59.5	62.4
	都府県	28.3	29.3	30.0	29.9	30.2	30.8	31.5	31.7	32.5
経産牛一頭当たり 乳量(kg)	全 国	7,388	7,462	7,613	7,732	7,894	7,867	7,988	8,011	—
	北海道	7,481	7,630	7,729	7,753	7,931	7,849	8,032	8,046	—

資料：農林水産省「畜産統計」、「牛乳乳製品統計」

注：各年とも2月1日現在の数値であり、20年度は速報値である。ただし、経産牛一頭当たり乳量は年度の数値である。

## 飼養動向：肉用牛

- ・ 飼養戸数は小規模層を中心に減少しており、近年は年率4%前後の減少で推移してきたが、21年は3.9%の減少。
- ・ 飼養頭数は15年以降、緩やかに減少傾向であったが、18年より再び増加。一戸当たり飼養頭数は増加傾向。

### 肉用牛飼養戸数・頭数の推移

(各年2月1日現在)

区 分 / 年		13	14	15	16	17	18	19	20	21
肉用牛	戸数(千戸)	110.1 (▲5.5)	104.2 (▲5.4)	98.1 (▲5.9)	93.9 (▲4.3)	89.6 (▲4.6)	85.6 (▲4.5)	82.3 (▲3.9)	80.4 (▲2.3)	77.3 (▲3.9)
	頭数(千頭)	2,806 (▲0.6)	2,838 (1.1)	2,805 (▲1.2)	2,788 (▲0.6)	2,747 (▲1.5)	2,755 (0.3)	2,806 (1.9)	2,890 (3.0)	2,923 (1.1)
	一戸当たり(頭)	25.5	27.2	28.6	29.7	30.7	32.2	34.1	35.9	37.8
うち 子取用 めす牛	戸数(千戸)	94.4	89.4	84.5	80.0	76.2	73.4	71.1	69.7	66.6
	頭数(千頭)	635	637	643	628	623	622	635	667	681
	一戸当たり(頭)	6.7	7.1	7.6	7.9	8.2	8.5	8.9	9.6	10.2
うち 肥育牛	戸数(千戸)	21.6	21.2	19.2	18.6	20.4	17.7	16.7	16.5	16.8
	頭数(千頭)	1,830	1,853	1,831	1,798	1,765	1,768	1,801	1,873	1,843
	一戸当たり(頭)	85.0	87.0	95.4	96.7	86.5	99.9	107.8	111.3	109.7

資料：農林水産省「畜産統計」、「肉用牛の飼養動向」、「乳用牛の飼養動向」、「家畜の飼養動向」

注1：子取用めす牛と肥育牛を重複して飼養している場合もあることから、両者の飼養戸数は肉用牛飼養戸数とは一致しない。

注2：肥育牛は、肉用種の肥育用牛と、乳用種の和としている。

## 飼養動向:豚

- ・ 飼養戸数は小規模飼養者層を中心に年率1割を超える割合で減少してきたが、10年以降、減少率は鈍化傾向で推移。飼養頭数は、15年はBSE発生による豚肉需要の増加に支えられ、大規模飼養者層における規模拡大等によりやや増加したが、16年以降は増減を繰り返しており、21年は増加。
- ・ 一戸当たり飼養頭数は着実に増加。

### 豚飼養戸数・頭数の推移

(各年2月1日現在)

区 分 / 年	13	14	15	16	17	18	19	20	21
飼養戸数(千戸)	10.8 (▲7.7)	10.0 (▲7.4)	9.4 (▲5.7)	8.9 (▲5.8)	- (-)	7.8 (▲12.2)	7.6 (▲3.2)	7.2 (▲4.2)	6.9 (▲4.7)
うち肥育豚千頭以上層(千戸)	2.1	2.1	2.1	2.0	-	2.0	2.0	2.1	2.0
戸数シェア(%)	(24.1)	(25.4)	(26.4)	(27.2)	(-)	(30.7)	(31.0)	(33.6)	(34.2)
飼養頭数(千頭)	9,788 (▲0.2)	9,612 (▲1.8)	9,725 ( 1.2)	9,724 ( 0.0)	- (-)	9,620 (▲1.1)	9,759 (1.4)	9,745 (▲0.1)	9,899 ( 1.6)
うち子取用雌豚(千頭)	922 (▲0.8)	916 (▲0.6)	929 ( 1.4)	918 (▲1.3)	- (-)	907 (▲1.1)	915 (0.9)	910 (▲0.5)	937 ( 2.9)
うち肥育豚千頭以上層(千頭)	6,640	6,615	6,812	6,874	-	7,231	7,378	7,497	7,831
頭数シェア(%)	(71.1)	(72.1)	( 73.8)	( 74.7)	(-)	( 79.1)	( 79.7)	( 80.8)	( 82.3)
一戸当たり平均 飼養頭数(頭)	906.3	961.2	1,031.3	1,095.0	-	1,233.3	1,292.6	1,347.9	1,436.7
一戸当たり平均 子取用雌豚頭数(頭)	97.5	104.3	112.1	118.1	-	133.8	139.5	145.6	157.4

資料:農林水産省「畜産統計」、「家畜の飼養動向」

注:17年は世界農林業センサスの調査年であるため比較できるデータがない。

また、18年の( )内の数値は16年との比較である。

## 飼養動向：鶏（ブロイラー）

- ・ブロイラーの飼養戸数は、近年、小規模飼養者層を中心に年率2～5%の割合で減少。飼養羽数は、近年ほぼ横ばいで推移。一戸当たり飼養羽数は着実に増加し、特に大規模層（年間出荷羽数10万羽以上）のシェアは拡大傾向。

### ブロイラー飼養戸数・羽数の推移

（各年2月1日現在）

区分 / 年	13	14	15	16	17	18	19	20	21
飼養戸数（戸）	2,986 (▲3.1)	2,900 (▲2.9)	2,839 (▲2.1)	2,778 (▲2.1)	2,652 (▲4.5)	2,590 (▲2.3)	2,583 (▲0.3)	2,456 (▲4.9)	2,392 (▲2.6)
うち年間出荷羽数 10万羽以上層（戸）	1,850	1,880	1,887	1,849	1,875	1,852	1,855	1,863	－
戸数シェア（%）	(54.7)	(55.9)	(56.8)	(57.1)	(60.1)	(60.4)	(62.0)	(63.7)	－
飼養羽数（千羽）	106,311 (▲1.9)	105,658 (▲0.6)	103,729 (▲1.8)	104,950 (1.2)	102,277 (▲2.5)	103,687 (1.4)	105,287 (1.5)	102,987 (▲2.2)	107,141 (4.0)
年間出荷羽数 10万羽以上層（千羽）	496,765	516,228	528,033	524,992	547,680	562,794	567,899	576,535	－
羽数シェア（%）	(87.5)	(88.1)	(88.7)	(89.0)	(90.2)	(90.5)	(91.2)	(91.5)	－
一戸当たり平均 飼養羽数（千羽）	35.6	36.4	36.5	37.8	38.6	40.0	40.8	41.9	44.8

資料：農林水産省「畜産物流通統計」

注：19年度の年間出荷羽数については、「平成19年度食鳥流通統計調査結果の概要」の数値である。

## 飼養動向：鶏（採卵鶏）

- 採卵鶏の飼養戸数は、近年、小規模飼養者層を中心に年率4～6%の割合で減少。成鶏めす飼養羽数は、減少傾向で推移した後、19年は増加に転じたが、20年と21年は再び減少した。一戸当たり飼養羽数は、着実に増加。

### 採卵鶏飼養戸数・羽数の推移

（各年2月1日現在）

区 分 / 年	13	14	15	16	17	18	19	20	21
飼養戸数	4,720 (▲3.5)	4,530 (▲4.0)	4,340 (▲4.2)	4,090 (▲5.8)	- (-)	3,600 (▲12.0)	3,460 (▲3.9)	3,300 (▲4.6)	3,110 (▲5.8)
うち5万羽以上層 戸数シェア(%)	680 ( 15.6)	690 ( 16.7)	690 ( 17.5)	681 ( 18.2)	- (-)	660 ( 18.3)	664 ( 19.2)	644 ( 19.5)	627 ( 20.2)
成鶏めす飼養羽数(千羽)	139,248 (▲0.8)	137,718 (▲1.1)	137,299 (▲0.3)	137,216 (▲0.1)	- (-)	136,894 (▲0.2)	142,765 ( 4.3)	142,523 (▲0.2)	139,910 (▲1.8)
うち5万羽以上層(千羽) 羽数シェア(%)	92,539 (66.7)	93,598 (68.3)	95,274 ( 69.7)	97,312 ( 71.3)	- (-)	103,287 ( 75.5)	109,343 ( 76.6)	111,713 ( 78.4)	110,069 ( 79.2)
一戸当たり平均 飼養羽数(羽)	29,502	30,401	31,636	33,549	- (-)	38,026	41,262	43,189	44,987

資料：農林水産省「畜産統計」

注1：種鶏のみの飼養者を除く。

注2：数値は成鶏めす羽数1,000羽未満の飼養者を除く数値である。

注3：平成17年は世界農林業センサスの調査年であるため比較できるデータがない。

また、18年の( )内の数値は16年との比較である。